



社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟

〒160-0004 東京都新宿区四谷1-13 虎ノ門実業会館四谷ビル
TEL(03)3357-3741/FAX(03)3357-7444
http://www.jcbl.or.jp/ E-mail:info@jcbl.or.jp

2005年11月24日

コントラクトブリッジ 2005年世界チーム選手権

— 日本勢 全3部門で奮戦するも 惜敗 —

コントラクトブリッジ(以下ブリッジ)の世界チーム選手権大会が10月22日から11月5日までの15日間、ポルトガルの観光都市エストリルで開催された。この大会は世界ブリッジ連合(WBF:World Bridge Federation:130カ国加盟)が主催する国際競技大会で、西暦の奇数年に開催されている。オープン部門(バミュダボウル)、ウィメンズ部門(ベニスカップ)、シニア部門(シニアボウル:56歳以上)の3つのカテゴリーがあり(注1)、それぞれ世界を8地域に分けたゾーン選手権を勝ち抜いた21チームと主催国が参加資格を得る。本大会では22チーム総当たりの予選を7日間行ない、各カテゴリーとも上位8チームが決勝トーナメントに駒を進める形式。

結果、3つのカテゴリーで最も古い歴史を持つバミュダボウルでは、イタリアチームが1975年以来、実に30年ぶりとなる14回目の優勝に輝いた。2位は前回優勝のアメリカ。ベニスカップの決勝は2001年大会と同じフランス対ドイツの欧州対決となり、前々回大会で苦杯を喫したフランスが見事初優勝を飾った。2001年より正式種目となったシニアボウルでは、アメリカとインドネシアが最終セグメントまで同点という接戦を繰り広げ、最終的にアメリカが競り勝った。

(注1) ユース(25歳以下)の世界チーム選手権は、8月にオーストラリア・シドニーで別開催され、優勝はアメリカ。日本は初出場で11位と健闘した。

日本代表選手たちは本年7月の第43回パシフィックアジア・ブリッジ選手権において好成績を納め、3つのカテゴリーすべてで本世界選手権出場を果たしたが、オープンチームは9位と、あと一歩のところまで決勝トーナメント進出を逃し、ウィメンズとシニアはともに12位と、世界の壁の厚さを実感させられる2005年大会となった。

長期間の日程をこなして帰国した日本代表各チームNPC(ノンプレイング・キャプテン)から寄せられたコメントは次のとおり。世界を舞台に日本ブリッジ界のチャレンジは続く。

- * 内藤佐紀子(オープンチーム):「日本は惜しくも9位に終わり、目標の8位入賞を果たせませんでした。やっと日本も世界で戦えるレベルまで来たように実感しました。」
- * 吉田正(ウィメンズチーム):「力不足の一言に尽きます。また一から出直しです。」
- * 西田奈津子(シニアチーム):「過去に数々の世界大会を制した名だたるスタープレイヤーたちが56歳を過ぎて、強力で魅力あるチームを組み、シニアイベントにどんどん参加しています。こうした世界的潮流が今大会における日本シニアチームの予想外の苦戦にもつながったと考えられます。」

[2005年世界チーム選手権 結果] 各全22チーム

	<u>第37回バミュダボウル</u> オープン部門	<u>第15回ベニスカップ</u> ウィメンズ部門	<u>第3回シニアボウル</u> シニア部門
1位	イタリア	フランス	アメリカ1
2位	アメリカ1 (注2)	ドイツ	インドネシア
3位	アメリカ2	オランダ	デンマーク
	日本(9位)	日本(12位)	日本(12位)

(注2) アメリカは競技人口が多いため2チームの出場枠を与えられている。

本件の問い合わせ先: 社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟 (担当:高橋)

Tel:03-3357-3741 Fax:03-3357-7444 E-mail:info@jcbl.or.jp

以上